

平成 24 年 11 月 12 日

福島第一原子力発電所事故に関わる
北茨城市民健康調査検討協議会 様

北茨城市長 豊 田 稔

福島第一原子力発電所事故に関わる北茨城市民健康調査の検討について（諮問）

これまで国や自治体は、原子力発電について供給安定性や経済性と共に安全性を提唱してきました。

しかし、東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所の事故により安全神話が完全に崩壊し、放射能による健康への被害が懸念されていることから、市ではこれまで子どもたちの生活空間を中心に除染等を行い、安全安心の確保に努めてまいりました。

その一方で、過去のデータが少ないことなどから将来的な健康への影響も取りざたされ、一部の市町村では子どもたちへの健康調査を実施するところも見受けられております。本市においても将来を担う子どもたち（原則 18 歳未満）の健康を守ることは大変重要であり、甲状腺検査をはじめとする健康調査を実施すべきか検討を行う必要があると考えております。

そうしたことから、子どもや保護者の健康不安の解消や将来にわたる健康管理の推進等を目的とした甲状腺検査等について、行政側の考えだけではなく、広く意見を求めた上で判断していきたいと考えておりますので、市民をはじめ教育関係者、医療関係者等で設置された貴協議会において、健康調査の方向性についてご検討いただきますようお願いいたします。